

論文の要約

報告番号	甲保 第11号 乙保	氏名	木野 綾子
学位論文題目	Different levels of awareness and knowledge of male climacteric in female nurses and female office workers (女性看護師と女性事務職における男性更年期障害の認識および知識に関する違い)		
<p>【背景】 女性更年期障害に関しては社会における認知度は高く、行政面からも様々な支援が存在するが、男性更年期障害については女性に比べて認識されていないため行政的な支援も充分行われていない。「男性更年期障害」という言葉は、医療の現場においては用いられているが、一般社会においては充分浸透しているとは云えず、また正確にその意味が捉えられていない。国際的には、「男性更年期」という言葉を認識している男性は香港では79.4%、スウェーデンでは65.4%であるが、ナイジェリアでは45.1%、北インドでは2.2%と国によって差がみられる。本邦における調査によると、56%の男性が「男性更年期」という言葉を聞いたことがあること、女性の方が男性よりもより認識していることが報告されているが、調査対象者の人数は50人と少なく、大規模な調査が必要である。これらのことを踏まえて考えると、潜在的に男性更年期障害で悩んでいる男性は多いと考えられる。男性更年期障害が女性更年期障害と同様に社会で広く認識されるためには、男性更年期障害に関して十分に知識を得た人間を育て、彼らを通して正確な情報を発信していくことが重要ではないかと思われる。効率よく社会に認識されるようにするためには、教育を受けるべき対象者を明らかにすることが必要である。このような観点でこれまで検討された報告はない。</p> <p>【目的】 本邦ではマスメディアを通して男性更年期障害について徐々に認識されつつあるものの、これらに関する研究はまだほとんど行われていない。そこで、本邦女性が男性更年期障害をどの程度認識しているかについて実態を把握し、どのような対象者にその認識レベルが高いかを明らかにするために、看護師と看護職以外の職種（事務職）の女性における認識の差異、女性更年期障害の経験の有無や治療の有無による認識の差異を検討することを目的とした。さらに、男性更年期障害への対応に関する考え方についても検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 20歳から65歳の女性看護師と看護職以外の職種（女性事務職）2800人を対象にして、男性更年期障害についての認識に関する質問紙調査を実施した。その内容は、①被調査者の基本属性 ②女性の更年期障害に関する知識 ③被調査者自身の更年期障害に関する項目 ④男性更年期障害の内容や治療に関する知識および対応に関する考え方に関する項目の4つとした。</p> <p>【結果】 質問紙の回収率は78.5%であり、有効回答率は75.0%であった。女性看護師831人、女性事務職員819人のうち男性更年期障害を知っていると答えたのは、看護師は73.5%、女性事務職員は68.9%であり、看護師の方が有意に(p=0.039)高かった。女性更年期障害を経験したことがある割合は全体の30%に認められ、更年期障害を経験したことがある女性は経験したことがない女性に比べて男性更年期障害を知っていた(p<0.001)。なお、更年期障害の治療経験の有無による差はみられなかった。男性更年期障害の症状に関して看護師、事務職員いずれも「抑うつ気分」「易刺激性」「神経過敏」「睡眠障害」といった症状については男性更年期障害と認識していた。「性的能力の衰え」「早朝勃起の低下」「性欲の低下」に関しては男性更年期障害の症状と認識している割合は看護職、事務職員共に低かった。さらに、過去または現在更年期障害を経験している女性では男性更年期障害について共感できる割合が高かった。</p> <p>【考察】 これまで海外、国内を通して男性更年期障害に関する調査は男性を対象に行われることが多く、女性に対してほとんど行われていない。今回、女性を対象に行った検討から、本邦における男性更年期障害の認識のレベルは比較的高いことがわかった。また、海外においては、医療職と一般市民は男性更年期に関して同じ程度の知識を有していたという報告もあるが、今回の検討からは認識や知識のレベルは一様ではなく、看護師や更年期障害の経験のある女性で比較的高いことが明らかとなった。さらに、既婚男性は、更年期症状を経験のあるパートナーは自分自身の男性更年期障害を受け入れやすいことが報告されているが、このことは既婚女性において男性更年期障害について共感できると応えた割合が高いとする私たちの結果と同様である。また、症状や治療に関する理解は充分ではないことがわかり、正確な情報を伝えていくことが必要であると思われた。女性更年期障害と同様に男性更年期障害が社会で広く認知されるには、男性更年期障害に十分な理解をもった女性を対象に教育していくことが必要ではないか考える。</p> <p>【結論】 更年期症状を体験している看護師は、男性更年期障害をより認識していた。これらの看護師を通して教育活動をすすめることは、男性更年期障害を社会に普及させる上で重要であると考えられる。</p>			